

## 平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ① 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身につける。  
自己の将来ビジョンを可能な限り明確にし、その進路実現のための確かな学力と実行力を備えた生徒を育成する。
- ② 自ら考え行動できるように、自主自律の心を養う。  
学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、自ら主体的に考え粘り強く行動できる生徒を育成するとともに、相手の痛みが共感できる優れた人権感覚を身に付けさせる。
- ③ 国際交流体験を通して、自己発見と他者理解を深める。  
海外の研修に積極的に出かけて国際感覚を磨き、見聞を広める。また、外国の諸団体を積極的に受け入れ国際交流を推進することにより、将来、国際人として飛躍できる資質・能力を育成する。
- ④ 国内最高レベルの音楽教育を推進する。  
国や府の推進事業等を積極的に活用し、音楽科の講師とも一体となって最高レベルの音楽教育を推進することにより、生徒の音楽的才能を開花させる。

## 2 中期的目標

- ①に関する中期的目標
  - ①教員の授業力の向上を期すため、平成 21 年度から推進している校内研究授業や外部公開授業を今後 3 年間さらに活発化させ、「魅力ある授業」「分かる授業」の確立に向け一丸となって取り組む。
  - ②授業評価 PT を中心に授業評価アンケートを実施し、教科担当者の自己分析は勿論のこと、教科、学年、学校全体で綿密に分析・協議し、効果的な授業改善を図る。授業満足度 80%を目標とする。
  - ③自己の将来を見据えたキャリア教育を 1 年次より段階的・系統的に推進し、進路目標の明確化を図る。
  - ④放課後、土曜日、長期休業中の補講習をさらに充実させ、3 年間を見通した計画的・発展的な指導体制を築くとともに、家庭学習を中心とした自主的な学習時間の増大を図り、最大限の進路実現を図る。  
☆国公立大学現役合格者 50 名 関関同立現役合格者累計 120 名を目標とする。
  - ⑤「使える英語プロジェクト事業」を活用して、英語運用能力を高めるとともに、進路実現に必要な英語力の向上を図る。
- ②に関する中期的目標
  - ①遅刻指導を徹底させ、基本的生活習慣の確立を期す。年間遅刻総数 2500 を割ることを目標とする。
  - ②生徒自治会や PTA と協力して、朝の挨拶運動を推進し、挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
  - ③地域清掃活動及び地域の高齢者施設、病院との交流活動の充実を図る。近隣の小・中学校とも連携して活動を活性化させる。
  - ④新入生へのクラブ紹介やオリエンテーションを充実させ、普通科生徒全体の加入率 90%超を目標とする。
  - ⑤参加体験型の取組を含む 3 年間を見通した人権教育の充実を図り、特に障がいがある人たちに対する思いやりと共感の精神を育成する。
- ③に関する中期的目標
  - ①「使える英語プロジェクト事業」を活用して、国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力を向上させ、有意義な国際交流の実現を図る。
  - ②海外修学旅行、ニュージーランド語学研修、ウィーン音楽研修を継続実施し、国際感覚を磨くとともに、最大限の教育的効果を上げる。
  - ③国際交流基金日中交流センター等と連携し、長期・短期の留学生を積極的に受け入れる。
  - ④大阪観光コンベンション協会や駐大阪韓国文化院等と連携して、海外の学校の訪問を積極的に受け入れ、有意義な国際交流を展開する。
  - ⑤国際交流担当首席や国際交流委員長を中心に、各学年団とも連携して、国際交流委員会の組織的活動を充実させる。
  - ⑥各学年の生徒国際交流委員会の定期的開催を定着させ、活動を活発化させる。また、国際交流新聞の定期的発行を軌道に乗せる。
- ④に関する中期的目標
  - ①国や府の推進事業等を計画的に活用して、日本の伝統文化や外国の音楽文化を学ぶ機会を積極的に設定するとともに、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と回数を充実させる。特別レッスン、特別公開講座については、年間 30 回の開催を目標とする。
  - ②音楽科講師との連携を強化し、最高レベルの音楽教育を推進するとともに、進路保障の充実を図る。  
音楽科現役生徒の進路決定率 90%以上を目標とする。
  - ③一流の指揮者を招聘して、NHK 大阪ホールでの定期演奏会を継続・発展させる。
  - ④生徒の自主運営による校内演奏会やアウトリーチ活動など、発表の場を多く体験することで音楽的能力や企画力の伸長を図る。
  - ⑤小・中学校や地域への広報活動を活発に行い、本校音楽教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
  - ⑥海外の音楽学校と連携し、交流を促進する。また、その交流を活発化させるため、「使える英語プロジェクト事業」を活用して、音楽科生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図る。
  - ⑦世界に羽ばたく音楽家の育成を期して、特に音楽的資質・能力の高い生徒を中心に、T-NET による特別英語レッスンを定期的に継続実施する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校に行くのが楽しい」(生徒)、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ 86.8%、89.9%で高く評価されているが、下記のとおり学習指導面など課題も多い。</p> <p><b>【学習指導等】</b> 生徒の回答では、「授業が充実している」に対する肯定的回答が 63.3%となり、昨年度比 5.7 ポイント増加した。また、「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」に対する肯定的回答は 44.1%で、昨年度比 7.1 ポイント下げている。一方、教員の回答では「授業を大切にしている」の肯定的回答が 92.6%となっており、生徒と教員との意識の差が顕著である。さらなる授業の改善が求められる。</p> <p><b>【生徒指導等】</b> 「先生の指導は納得できる」(生徒)、「適切に生徒指導を実施している」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ 54.6%、59.8%で昨年度比それぞれ 16.4、11.7 ポイント低下している。指導方針・内容について従来と変わらないが、生徒・保護者の評価が下がっていることから、これまでの指導について理解を求めていくとともに、指導の在り方について検討することも必要である。</p> <p><b>【進路指導等】</b> 「将来の進路や生き方について考える機会がある」(生徒)、「適切な進路指導を行っている」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ 56.2%、54.8%であった。生徒の評価は 11.7 ポイント下がった。今年度これまで以上に積極的な進路指導を展開してきただけに、この数字に戸惑っている。次年度以降、積極的な進路指導を進めるとともに、生徒・保護者の理解を図っていきたい。</p> <p>行事は生徒の特性を伸ばすものである反面、忙しいし進学に不利だが、いい面が多い。</p>	<p>第 1 回 (平成 24 年 9 月 25 日開催)</p> <p>内容：学校協議会の新制度の説明、H23 学校評価・H24 学校経営計画の説明、H24 授業アンケート (7 月実施) 結果・自己診断項目説明、H24 授業アンケート (7 月実施) 結果について</p> <p>・昔とは生徒が変わってきている。生徒の力と先生の要求レベル (受験に必要なレベル) の差を踏まえた授業を考える必要あり。</p> <p>学校教育自己診断の調査項目について</p> <p>・いじめについて、どこかでサインを見逃さないように、オブラートに包んだ言い方でも例えば「友達との関係はうまくいっているか」など、回答のしやすい形の質問にしてほしい。</p> <p>第 2 回 (平成 25 年 2 月 12 日開催)</p> <p>H24 学校評価 (案)・H25 学校経営計画 (案) の説明</p> <p>・夕陽丘高校の新しいキャッチフレーズについて、イメージアップするように考えてほしい。 ・遅刻指導は徹底的にお願いしたい。</p> <p>・行事は生徒の特性を伸ばすものである反面、忙しいし進学に不利だが、いい面が多い。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
取組 1	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①研究授業や公開授業の推進と若手教員の育成</p> <p>②授業評価アンケートの実施</p> <p>③キャリア教育の推進</p> <p>④進路実現に向けた補講習等の体系化と実施 ・自主的な学習時間の増大</p> <p>⑤英語運用能力及び英語力の向上</p>	<p>①校内研究授業（全教科）を6月・11月の2回実施する。若手教員とベテラン教員との意見交換会を実施する。 ・「使える英語プロジェクト」事業を活用して、英語科教員に対する英語力向上研修を積極的に推進する。</p> <p>②非常勤講師を含む全教員対象に7月に実施し、結果を分析・協議して授業改善を図る。</p> <p>③「総合」の時間やLHRを活用して自己の進路を考える。大学や企業等と連携して進路実現に向けた具体的な取組を図る。</p> <p>④土曜講習、放課後講習、朝学習等の補講習を3年間を見据えて体系化し、効果的な指導を展開する。国立進学や英語に特化したセミナーを開設する。博物館・美術館・図書館の活用、特設講座による理科実験実習の実施。 ・各教科で効果的な課題を積極的に提供し、自学自習の環境作りを仕掛ける。定期的に学習実態調査を行う。</p> <p>⑤「使える英語プロジェクト」事業を組織的に展開する。ICTやタブレット型パソコンを活用した授業を展開する。 ・「リーディング」の授業において、様々な工夫をしてプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのスキルの向上を図る。</p>	<p>①研究授業を全教科実施できたか。 意見交換会を2回以上実施。</p> <p>②自己診断の授業に対する否定的回答を30%以下とする。</p> <p>③大学や企業と連携したキャリア教育を4回以上実施。</p> <p>④体系化され教職員の共通理解のもと実施されているか。 ・定期的な学習実態調査の実施。自主学習時間の段階的アップ ・国公立大現役合格30名、関関同立大現役合格150名</p> <p>⑤事業が組織的に展開できたか。タブレット型パソコンを活用した授業が定着したか。 英検受検者数準2級600名、2級200名 準2級以上の合格率の目安→受験者の75%以上</p>	<p>①6月に研究授業・公開授業を実施したが、11月は実施できず。「使える英語プロジェクト」事業に係る公開授業を活用して英語科教員の研修を実施。次年度は初任研、10年研、指導教諭等の授業を通じて若手教員とベテラン教員との意見交換会を活発化していきたい。(○)</p> <p>②自己診断(生徒)の「授業は充実している」に対する否定的回答は32.7%で、H23の41.9%に比べて9ポイント減少した。次年度はさらに授業改善を進め30%以下をめざしたい。(△)</p> <p>③4月(1年企業)、5月(3年大学)、6月(2年大学)、11月(1大学、2年大学)の5回実施。(○)</p> <p>④体系化した取組までにはならなかったが、学力生活実態調査を1年時2回2年時1回実施、振り返りノートを1年生が1年間実施するなど、自学自習の環境作りを仕掛けた。次年度も効果的な指導を検討していきたい。(○) 国公立大現役28名、関関同立大現浪124名合格。</p> <p>⑤タブレット型PCを用いた授業をNETを中心に1,2年生で展開。「リーディング」の授業でのさまざまなスキルの向上はタブレット型PCを用いた授業で実践。スピーチコンテストにも活用。次年度はさらに効果的な活用方法を検討していきたい。(○) 英検受検者数準2級303名、2級98名 合格率; 2級 35.6%、準2級 90.5%(第2回まで)</p>
取組 2	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①遅刻指導の徹底</p> <p>②挨拶運動の推進</p> <p>③清掃活動や地域交流活動の充実</p> <p>④部活動の活性化</p> <p>⑤人権尊重の教育を推進</p>	<p>①定期的に遅刻防止指導週間を設定し、指導の徹底を図る。集会等いろいろな機会を通じて説諭する。遅刻常習者に対しては、関係部署と連携するなど効果的な指導を図る。</p> <p>②朝の挨拶運動は定着しており、継続実施する。一般来校者に対する挨拶の励行をまずクラブ部員から推進していく。</p> <p>③生徒と教職員が協力して地域の清掃活動を活発に行う。近隣の小・中学校との合同清掃活動も実施する。音楽科や吹奏楽部を中心に高齢者施設や病院等との交流活動を促進する。 ・校内美化を啓発・推進。</p> <p>④各部の活躍を校外内に積極的に発信(ポスター作成・HP更新等)</p> <p>⑤参加体験型を含む効果的な人権教育を展開する。</p>	<p>①年間遅刻総数2700を割る。</p> <p>②クラブ部員の挨拶励行アンケート調査で否定的回答を20%以下とする。</p> <p>③合同清掃活動を含む年間5回以上の実施 ・年間5回以上の交流活動の実施 ・美化運動が効果をあげ、校内が美しくなったか。</p> <p>④全学年の部活動加入率80%以上</p> <p>⑤人権教育実施後アンケートで否定的回答を30%以下とする。</p>	<p>①12月末現在の総遅刻数は2811でH23比358増、H22比461増となった。1,2年生はほぼ昨年並みの遅刻数であったが、3年生で増加した。特に授業遅刻が大幅に増加したことと遅刻常習者に対する指導が課題である。3年生については遅刻数が増加したが、欠席数は後期中間までの集計で前年度比449減と大幅に減少した。次年度2500以下になることをめざす。(△)</p> <p>②朝の挨拶運動は生徒・教職員合せて常時5~10名体制で実施。自己診断(生徒)の「あいさつ」に対する否定的回答は24.8%で、20%以下ではなかったが、良い傾向になっていると思われる。(△)</p> <p>③清掃活動は2回しかできず。(△)音楽科、吹奏楽部を中心に文化祭などで交流活動を5回実施。(○) 校内美化については、自己診断(教員)の「清掃は行き届いているか」に対する肯定的回答が40.7%でもあり、まだまだ十分ではない。教職員・生徒ともに校内美化について意識改革を図っていきたい(△)</p> <p>④部活動加入率は全学年で74%であったが、1年生普通科では84%であった。次年度についても現在の取組みを継続して加入率を伸ばしていきたい。(○)</p> <p>⑤1年;アイマスク体験、視覚障がい者の講演、2年;グアム修学旅行実施に向けて「国際理解」のテーマで人権学習を実施。3年;近畿統一用紙を使って就職差別について学ぶ。各クラスに弁護士を招き社会問題を学ぶ。 各学年ともに概ね高い評価であり、人権問題について啓発理解が図られた。次年度も、1年障がい者問題、2年外国人問題、3年働くものの権利について効果的な指導を行うとともに、いじめ、体罰等の人権問題についても取り組んでいきたい。(○)</p>

府立夕陽丘高等学校

<p>取組 3</p>	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。 ①国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力の向上 ②海外研修の推進  ③留学生の積極的受け入れ  ④海外の学校の積極的受け入れ ⑤国際交流委員会の活動の充実 ⑥生徒国際交流委員会の活性化</p>	<p>①国際交流委員やニュージーランド語学研修、ウィーン研修旅行の参加者を中心に、T-NETによる放課後の特設レッスンを積極的に実施する。 「使える英語プロジェクト」事業を積極的に活用する。 ②グアム修学旅行、ニュージーランド語学研修、ウィーン研修旅行に精力的に取り組む、画期的な成果を収める。 ③中国、フィンランドからの各1名の長期留学生（1年間）を7月まで受け入れ、9月からは新規の留学生を受け入れる。短期留学生も積極的に受け入れる。 ④中国、韓国、台湾の学校を中心に、受入れの再開と効果的な交流を図る。 ⑤国際交流委員会を定期的に開催する。  ⑥生徒国際交流委員会を定期的に開催するとともに、国際交流新聞を定期的に発行する。</p>	<p>①定期的に継続実施  ②事後の生徒アンケートの満足度 90%超  ③留学生の成長度と生徒への波及効果  ④交流活動 2回以上  ⑤月 2回以上の開催  ⑥年間 3号以上発行</p>	<p>①国際交流委員や NZ 語学研修の参加者に対し、T-NET による特設レッスンを積極的に展開した。②のとおり大きな成果を上げた。次年度も T-NET の活用を図っていく。(○) ②グアム修学旅行の生徒の満足度は 95.5%、NZ 語学研修の生徒の満足度は 100%で非常に大きな成果を上げた。次年度についても現在の取り組みを継続していく。(○) ③9月に中国から1名長期（1年間）受け入れ、1月に韓国から2名短期（2～3週間）受け入れた。中国留学生は日本語が十分でなく大きな成果は上がっていないが、これから期待したい。(○) ④ニューヨークの高校生（23名）との交流（7月キズナ強化プロジェクト）、台湾の高校生（34名）との交流（12月）を実施。いずれも大きな成果をあげた。(○) ③④ともに次年度も積極的な受け入れを図っていく。 ⑤⑥国際交流新聞を2回しか発行できなかったが、生徒国際交流委員は交流生の受入、歓迎などいろいろな場面で活躍してくれた。次年度もさらに国際交流委員会の活性化を図っていく。(○)</p>
<p>取組 4</p>	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。 ①国や府の推進事業等の積極的活用、及び特別レッスン、特別公開講座の充実  ②音楽科講師と連携し、最高レベルの音楽教育を推進  ③定期演奏会の継続・発展 ④生徒の自主運営による音楽的能力や企画力の伸長  ⑤広報活動の活発化  ⑥海外の音楽学校との交流を促進  ⑦世界に羽ばたく音楽家の育成</p>	<p>①国、府、民間事業を活用し、講師を継続的に招聘し、一定のテーマに基づいて長期的な視点で指導が行えるよう企画する。（オペラ、伝統芸能（能・文楽）等） ・DEANと連携し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と量を充実させる。 ・取組成果を積極的に発信する。 ②通常の授業のほか、生徒の音楽的才能を開花させるために十分な指導体制を整えるとともに、進路実績のアップを図る。  ③10月14日（日）にNHK大阪ホールにおいて音楽科定期演奏会を開催する。 ④従来の学内演奏会に加えて、地域等でボランティアによる演奏会を企画し、発表する。生徒が企画・運営・出演すべてをやる内容を検討。  ⑤「音楽科説明会」「音楽基礎講座」（中学生向）「あなたもピアニスト」（小学生向）等を企画し本校をめざす児童生徒を発掘していく。 ・HP（音楽科）をリニューアルする。 ・地域や音楽団体と連携し、本校生徒と交流演奏会を実施する。 ⑥アジアの音楽文化発信の拠点として、ソウルや上海の音楽学校と交流を行い、合同演奏会を開催する。  ⑦音楽的才能のみならず、英語で世界の音楽家と堂々と交流できる国際的音楽家を育てる。 ウィーン研修旅行（3月）の実施</p>	<p>①一つのテーマについて年間を通じて授業を実施 ・特別レッスン・特別公開講座を年間 35回以上実施。 ・冊子作成、HP掲載、研究会等により成果を発信  ②国公立大現役進学 15名が目標。  ③満席の観客を動員  ④学内演奏会年 3回 ボランティア演奏会年 3回以上実施  ⑤創意工夫を懲らした説明会の実施 ・3回以上の実施 ・HPの定期的更新  ⑥日中韓交流演奏会の開催又は企画  ⑦T-NET による特設レッスンの継続的実施。 ・事後の生徒アンケートの満足度 100%。生徒の変容を実感できたか。</p>	<p>①国、府指定事業等により特別レッスン 15回、特別公開講座 9回を実施。オペラは指定されなかったが音楽大学と連携し内容を縮小して実施。伝統芸能については次年度実施に向け国に申請。HPは更新頻度を上げた。次年度についても現在の取り組みを継続するとともに、さらなる成果発信に努める。(○) ②40名の音楽科講師と常に情報交換を行い、夕陽丘高校が求める音楽教育を推進してきた。今後も同じ取り組みによる連携を図っていく。(○) 国公立大現役進学者は12名。 ③今年度も会場がほぼ満員となった。次年度も各界から支持されるよう取り組んでいく。(○) ④演奏会の企画・運営について、生徒がより自主的に担当できるようになった。今後も生徒の活躍する場面を増やしていきたい。(○) ⑤「音楽科説明会」「音楽基礎講座」（中学生向）「あなたもピアニスト」（小学生向）を計4回実施。東日本チャリティコンサート、府庁コンサート、教育センターランチタイムコンサートに参加。(○) ⑥今年度アジアの音楽学校との交流はできなかったが、H25年6月に台湾の音楽学校との交流を企画（60名の生徒が来校予定）(○) ⑦ウィーン研修旅行を3月下旬に実施。大きな成果を収めた。(○)</p>